

「学生の就労見通しと生活に関するアンケート」結果速報

<調査目的>

雇用職業情報を提供している一般財団法人雇用開発センター（千代田区 代表理事 井上英紀）では、大学～短大・専門学校を含む“多様な学生”の卒業直前（2月）の内定等、就職見通しを、就職活動、就労への意識や生活態度と関連付けて調査しました。（財団法人雇用開発センターは内閣府の認可を得て、本年1月、一般財団法人に移行しました。）

<調査概要>

対象者条件：20～25歳（2011年4月1日現在）で、現在「学生」（大学・大学院・短大・専修学校含む）であること現在就学している学校卒業後の進路が「就労」（正規・非正規含む）であること

有効回収数： 男 535、女585 計1,120人（内、今春卒業者：男 197
女 226 計 423人）

調査実施時期： 2011年2月17日～25日

調査エリア： 全国

調査方法： インターネット調査

調査パネル： Ipsos 日本統計調査 j - p a n e l を使用

2011年「就労見通しと就職活動に関するアンケート」 調査結果の速報

1. 就職を目指す学生の明と暗、そして見失う就活の意義

●今年卒業する20～25才の学生（大学・院・短大・専修）の71%が正規社員に内定している。昨年、同時期に実施した調査の結果は正規社員内定72%であり、昨年とほぼ同水準ということになった。

●しかし、23%が非正規社員就労または留年・就職浪人を覚悟している状況で、就職氷河期以降の学卒後の非正規就労は今年も変わらず固定化する様相となり、卒業が1年以上先の就労希望学生になると40～50%が正規社員就労はできそうもないという不安感を抱きながら学生生活を送っている。

●次に、今年卒業で就職活動を経験した学生への設問をみると、28%が2社以上の内定を得ていて、特定の学生に採用が偏るといふ就職難の時代の側面が明らかになった。また、彼らの就活3点セットは「エントリーシートへの登録」（75%、平均34社）、「企業セミナーへの参加」（62%、平均31社）、「会社訪問」（45%、平均20社）であり、就活とは希望の実現よりも行動することに意義を見出しているようにみえる。

図1 卒業年次別・就職活動の見通し



2. 海外就労に前向きな学生は40%、海外就労したくない学生60%

●若年層の内向な姿勢が言われているが、海外就労についての設問により確認してみた。結果は「是非就労（15%）+命じられれば就労（25%）」、「なるべくなら就労したくない（23%）+考えられない（37%）」、ちょうど4対6となった。

●これを学生の内向姿勢の検証とみるかど

うかは判断が分かれるところだが、彼らの意識の違いに注目したい。今年卒業者でみると、海外就労に前向きな40%の学生は正規社員の内定率が高く、海外で就労したくない60%の学生は非正規やむなしの比率が高い。この時代、海外就労に前向きでない学生は就労姿

図2 海外就労態度別・就職活動の見通し（今年卒業者）

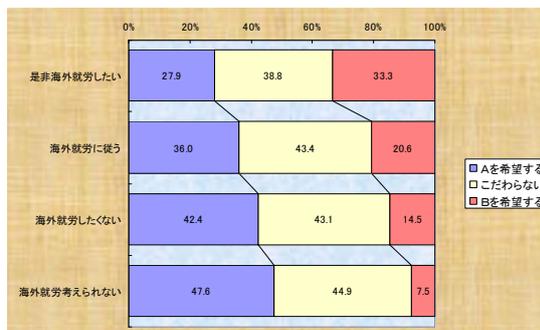


勢そのものに積極的でないと思われるのだろうか。

●海外就労に前向きな学生は、就労上の重視点の設問において「仕事のやりがい」のほか「知識能力向上機会」や「あらたな人との出会い」を求める傾向がみられ、単に海外にいてみたいということに留まらない前向きな意識をもっていることを裏づけている。

図3 海外就労態度別・就職希望企業 A安定企業／B成長企業

●海外就労に前向きな学生は、就職先として安定企業よりも成長企業を選択する志向が明らかになっている。そのほか、官公庁・公的機関よりも民間企業を選ぶ傾向もみられ、安定よりも時代や環境の変化に対応して直ぐに結果の職業生活をイメージしているように見える。



3. 学生が身につける職業能力の自信はどこからくるか？

図4 職業能力の自己評価別・就職活動の見通し (今年卒業者)

●職業能力の自信が年代を問わず就職や就労の形態や意識に係わる、現代の就労を巡る重要なキーワードとなっていることが昨年の調査で明らかになった。

●昨年の調査では、就労の経験を積むことによって職業能力の自信が備わってくるものであり、当年卒業の学生の段階でも30%が職業能力に自信(非常に+やや)をもっていたが、今年の卒業者は35%とやや職業能力に自信を持つ学生が増えている。

●今年の調査においても職業能力の自信は正規社員内定率が、自信のない学生よりも明らかに高い。就職を目指す学生が職業能力に自信を持つことはその後の明と暗を分ける分水嶺としての指標の一つと考えられる。

●では、学生の職業能力の自信はどのようにして築かれているのだろうか。能力に自信を持っている学生は、学卒後の就職に向けた準備として「学校での専攻、専門に関する科目」や「語学力」に励み、それらを自信の強みとしていることがあげられる。職業能力の自信は学生の本分である学業によるものである。

